

④ スtringスアレンジ

ストリングスアレンジ

【基本テクニック】

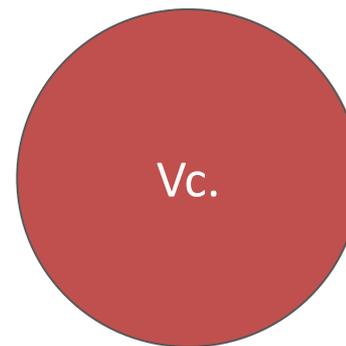
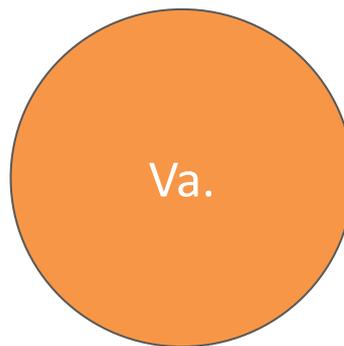
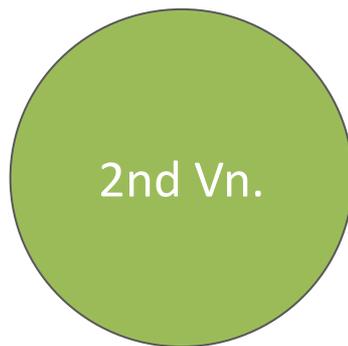
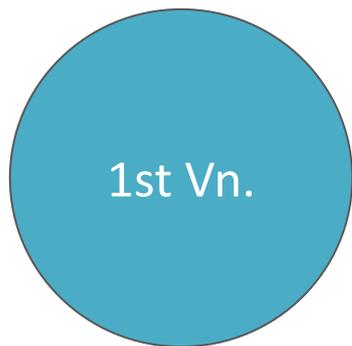
1. メロディを主体とした対旋律中心のアレンジ
2. ユニゾン型 (&ブロックコード型)、デュアルオブリガート型が主体
3. ジャズのボイスングを利用

【アレンジの手順】

1. 1st Violinを使ってトップのメロディラインを決める
2. 各セクションごとにアレンジの型を選定
3. デュアルオブリガート型の下声部を決める
4. 各所アレンジの型に従ってボイスング

ユニゾン型

4パート全てユニゾン



ユニゾン型の特徴

- ① 全パートが完全ユニゾン
- ② スtrings全体で、2オクターヴ～3オクターヴにまたがるダイナミックなユニゾンを形成。
- ③ メロディ要素しかないため、Strings以外に和音やベース、リズムを担当するパートが必要。
- ④ 発展系として、コードを形成しながら単一のメロディを演奏する「ブロックコード型」がある。

ユニゾン型のボーシング

ユニゾン型における、各パートのオクターヴ関係は以下の3つのパターンが有効。

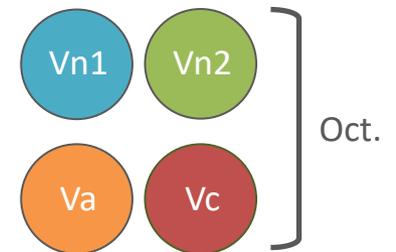
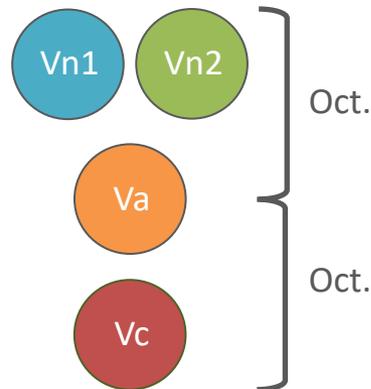
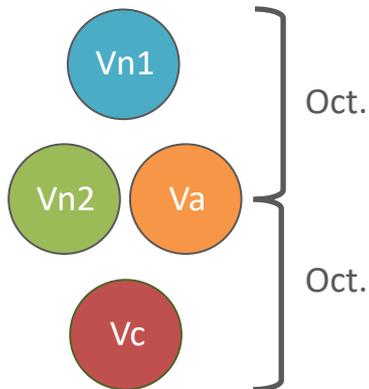
パターン1 : 2oct. (バランス重視)



パターン2 : 2oct. (トップノート強め)

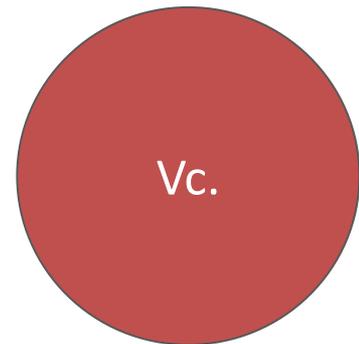
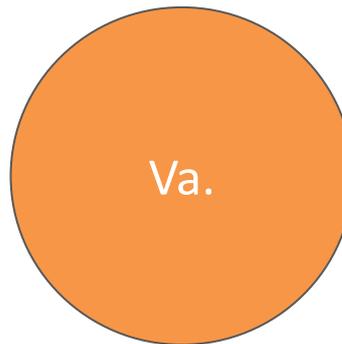
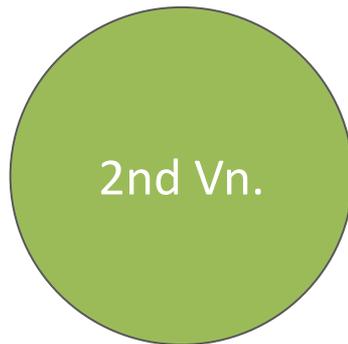
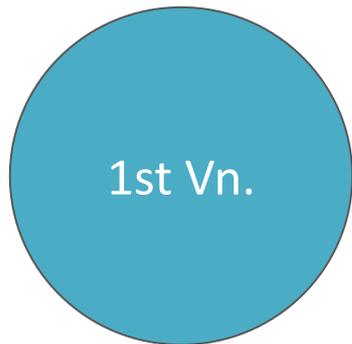


パターン3 : 1oct.



ユニゾン型の応用「ブロックコード型」

4パート全体でコードを形成しながら単一のメロディを演奏



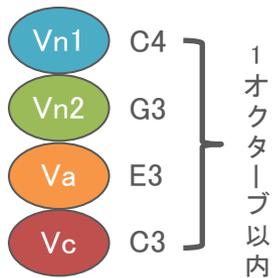
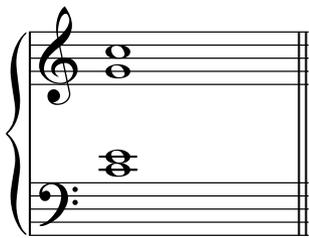
ブロックコード型の特徴

- ① 1stに対して下三声がハモリを形成
- ② 1つのメロディを全体でハモリながら演奏するため、非常に豪華で華やかなサウンドになる
- ③ メロディ要素しかないため、ストリングス以外に和音やベース、リズムを担当するパートが必要。
- ④ ボイシングはジャズのボイシングをそのまま流用

ブロックコード型のボイスング

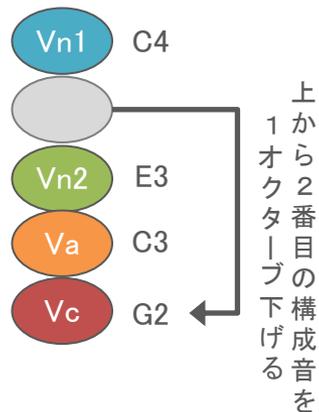
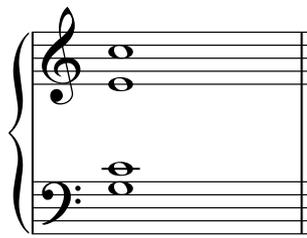
クローズドボイスング

ブロック配置

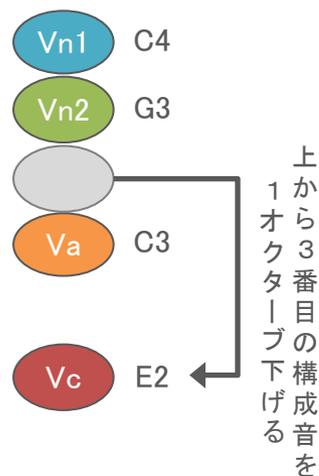
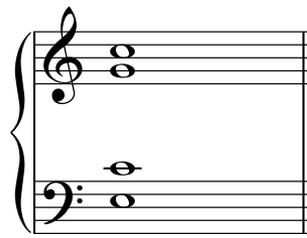


オープンボイスング

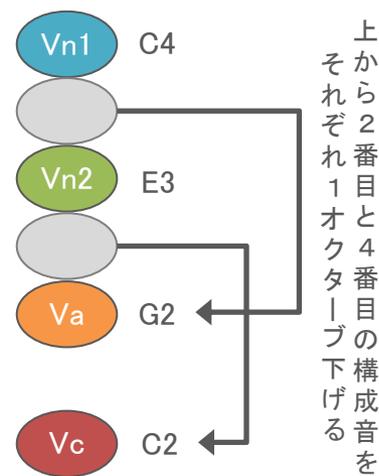
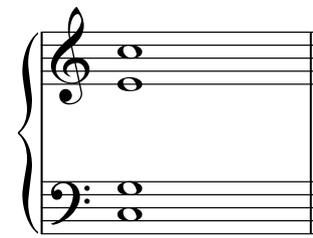
ドロップ2



ドロップ3

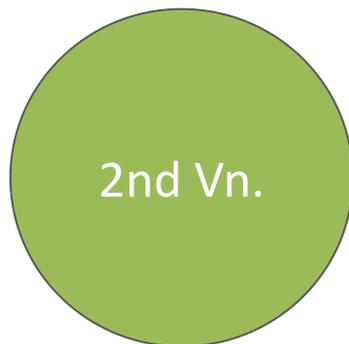
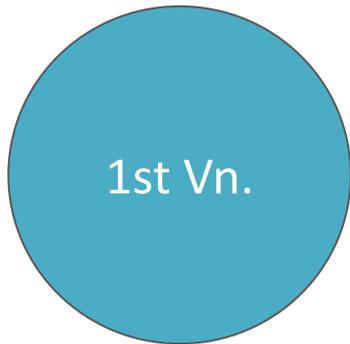


ドロップ2&4

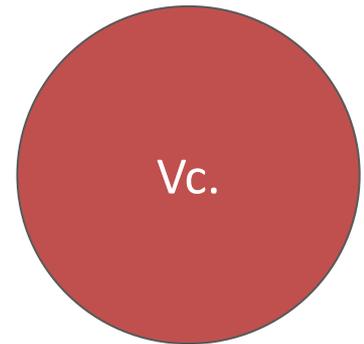
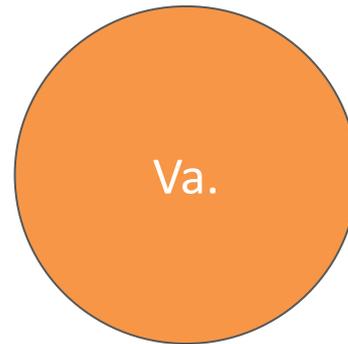


デュアルオブリガート型

1st&2ndは上声部



Vla.&Vlc.は下声部



デュアルオブリガート型の特徴

- ① 1st+2nd、Va.+Vc.の2ペアでそれぞれメロディを演奏。
- ② 2つの旋律が同時に絡み合う、対旋律に特化したアレンジスタイル。
- ③ メロディ要素しかないため、コード、ベース、リズムの要素は他のパートに任せることが前提。
- ④ さらに細分化して、トリプルオブリガート、クワッドオブリガートスタイルも可能。(だが超難しい。)

